慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	生命保険相互会社におけるマネジメント・ コントロール - 支社の利益管理システムを中心にして -
Sub Title	
Author	半田幸徳(Handa, Yukinori) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第870号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0870

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No.870

学生氏名　半田　幸徳
（明治生命保険相互会社）

主査　伏見多美雄
副査　柴田　典男
柳原　一夫

所属　伏見多美雄　研究室

生命保険相互会社におけるマネジメント・コントロール
－支社の利益管理システムを中心にして－

本論文は、M生命保険相互会社のマネジメント・コントロールに関し、とくに、支社管理の視点を中心に検討したものである。

従来、生命保険会社経営においては、「高額の死亡保障をより安く、よりあまねく提供する」という基本的使命のもと、量の拡大を第一義とした経営が展開されていた。つまり、営業職員数の拡大を通じた契約高の拡大である。ところが、近年、営業職員の量的確保が困難になってきたばかりか、その陣容を支えるだけの予定事業費率も、今後は確保しがたいとされている。さらに、契約高についても従来のような伸びは期待できない状況にある。

また、高齢化社会の進展、顧客の金利選考意識の高まり等を背景として、年金・貯蓄型商品への顧客ニーズが高まるにつれ、生命保険会社の保険料収受および保険金支払等の長期安定性が弱まり、生命保険会社は収支バランスを軸とした経営への転換を迫られている。

上記に加え、現在保険審議会においても、相互会社形態を含め、保険事業の見直しが行われている。

そこで、本論文では、今後の本格的な競争時代に向け、M社が目指すべき方向を検討し、そのためのマネジメント・コントロールのあり方を検討している。

具体的には、同社は、今後、年金・貯蓄型市場に重点を移し、生活設計・財産形成等のトータル・コンサルティング機能の強化により、高額所得者層を中心に業務の展開を図るべきだとしている。

また、経営効率化を一層進め、資産運用源資となる保険収支の向上を図り、収益力を向上させるために、支社管理については、従来の契約高指標から保険収支を軸とした利益指標への変更、さらに、競争環境対応等の観点から支社への権限委譲促進等による支社自主経営の推進を提言している。